



Ⅲ 有望な分野

エチオピアの経済は未開発の資源が膨大にある一方でまだ熟してはならず、投資機会がさまざまに眠っているといえます。エチオピアは農業、農産品加工、原皮・皮革製品、織物・衣料品といったものに比較的強い国です。連邦政府内閣規則No. 270/2012では海外投資家に門戸が開かれている分野が規定されており、(別表2) 今日、エチオピアで最も確実な可能性を秘めているものには、農業、農産品加工、織物・衣料品、原皮・皮革製品、砂糖、化学薬品産業、観光、採鉱、水力発電があります。現在取り組んでいる民営化プログラムをみても特に農業、製造、ホテルおよび観光部門で個人投資家にとって多くの市場機会があることがわかります。本章はエチオピア国内にある投資機会の主な分野をご説明いたします。

農業

エチオピアには農業資源が豊富に与えられています。海拔-

148メートルから標高4,620メートルまで高さの差がある国土は、農業生態学的にそれぞれ独特な農業的潜在性と生物学的潜在性を持つ18の主要ゾーンと49の下位ゾーンに分けられます。エチオピアは世界でも有数の数と多様性のある遺伝資源に恵まれています。エチオピアにはさまざまな作物を耕作するのに適した土壌と気候があり、作物としては主に穀物、豆類、油糧種子が作られています。多種の果物や野菜、切り花は輸出品として急速に拡大していますが、エチオピアの換金作物は主にコーヒー、綿花、たばこ、トウキビ、香辛料となっています。



コーヒー栽培



エチオピアはアフリカでも有数のアラビカコーヒーの産地で、「コーヒー」という言葉も長い間、野生のコーヒーが育っていた地方「カファ」に由来していると言われていました。世界で最も良質のアラビカコーヒーが栽培されており、コーヒーは輸出作物としても最も重要なものとなっています。60万ヘクタールもの土地面積が栽培にあてられ、2010年には、目標の81.3%である341,000トンのコーヒーが生産されました。栽培面積を最も多く抱えるのは、南部および西部の高地ですが、エチオピアは世界で最もコーヒーの種類が豊富な国でもあり、どの国よりも多くのコーヒーが栽培されています。コーヒーの栽培に適した気候は、ガンベラ平原の準サバナ気候(海拔500m)から南西部にある一年を通じて多湿の高原の森林地帯(海拔2200m)までと多様であり、海拔1500から2100メートルのエチオピア高原で栽培されています。また、コーヒー栽培に適した土壌はPH4.5~6.5のもので、年間降雨量が1500~2500mmで一年を通じてバランスよく雨が降ることが必要となります。

紅茶栽培



エチオピアの紅茶は世界でも良質なもので、その味と香りは実際、高い評価を受けています。エチオピアの紅茶栽培農園の面積は2700haになり、紅茶以外のお茶は栽培されていませんが、多くの種類の茶葉を栽培できる潜在性がありま

す。現在、年間7000トンの紅茶を生産する能力がある一方で国内の消費量は約5000トンとなっています。紅茶の品質は主に気候条件、紅茶の木が育つ土壌、発酵方法によって左右されますが、エチオピアでは、紅茶は主に高原の密林地帯で生育されています。

とうもろこしの栽培



とうもろこしはエチオピアでは重要な作物となっています。エチオピア中央部の高原地域で栽培されていますが、国内にはとうもろこし栽培に適した土地がまだ広大に広がっています。とうもろこしは主にSNNPRとオロミア地方で栽培され、177万ヘクタールがその耕作地となっています。

小麦・大麦栽培



小麦と大麦は主にオロミア地方（バレおよびアルシ地帯）、アムハラ（北ゴンダールおよび北シエワ）地方の高原や台地で栽培されています。小麦と大麦は国内の穀物の主要なもので、それぞれの耕作面積は1,095,436ヘクタールと1,398,215ヘクタールとなっており、小自作農家が所有する土地となっています。農産物加工における民間セクターと契約栽培農家スキーム（アウトグローア・スキーム）の発展が持つ将来性は相当なものがあり、アフアール、ガンベラ、SNNPR、

ソマリ地方の灌漑された土地での小麦生産はすばらしい投資機会となっています。

米作



エチオピアには米の生産に適した土地も多くあります。有力な将来性のある地域は

- アムハラ州（フォゲラ、ゴンダール、ズリア、デンビア、タクサ、アチエファール）の西中央部の高地
- アムハラおよびベニシヤングル州（ジャウィ、パウイ、メテマ、ダンゲール）の北西低地
- ガンベラ州（アボボ、イタン・ウォレダ）
- SNNPR州の南部および南西部低地（ベラリー、ウエイト、オモラト、グラ・フェエダ、メニット）
- ソマリ州（ゴード）
- オロミア州（イルアバボラ、東部および西部ウエレガ、ジンマ地帯）の南西部高地

オイルシード栽培

エチオピアには多くの種類の油糧種子が栽培されており、生産された油糧種子は国内で消費されるだけでなく、国際市場にも持ち込まれています。国内の食用油産業では、なたね、アマ、落花生、ひまわり、ニガシード、綿実の種子が原材料となっており、ピーナッツやゴマといった油糧種子は貴重な輸出品となっています。油糧種子に適した農業生態学的条件が整っているのはフメラ、メテマ、ジャウィ、チェワカ、マンクシュになります。



園芸

多様な農業気候帯、生育に適した期間の長さ、灌漑に利用できる水が豊富にあるおかげで、エチオピアでは果物や野菜がよく育つため、エチオピア政府は農産物加工に実績のある企業がこの部門に投資することを奨励しています。現在、152,600ヘクタールの農地で果物や野菜が栽培されていますが、エチオピア全体の生産量は1,280万キントルに留まっています。主要な果物のうち、マンゴー、バナナ、パパイヤ、アボカド、柑橘類、ぶどう、パイナップルといったトロピカルフルーツ（準トロピカルも含む）が最も多く栽培されていますが、洋梨とプラムが最近エチオピアで注目されている温帯果実となっています。商業としての草花栽培はエチオピアでは比較的新しい産業ですが、非伝統的輸出部門として急速に成長しており、バラ産業は1998年から2009年にかけてめざましい発展をとげました。

エチオピアは現在、アフリカで第2位の切り花輸出国となっており、また、世界的に有数な高山植物、低地植物の理想的な育成地でもあります。切り花産業は最も急速な成長をみせている下位部門のひとつです。

現在エチオピアでは、国内投資家のほか、オランダやインド、イスラエルからやってきた80を超える花の生産業者が合計約1,200ヘクタールの土地で花を栽培しており、切り花の輸出先は、オランダ、フランス、ドイツ、イタリア、カナダ、ノルウェー、スウェーデン、イギリス、中東、その他のEU諸国となっています。

香辛料の栽培

エチオピアで栽培されている主な香辛料は、ショウガ、唐辛子、フェヌグreek、ターメリック、コリアンダー、クミン、カルダモン、コリアンダー、黒こしょうなどがあります。現在、香辛料は122,700ヘクタール近い耕地で栽培されており、生産量は年間244,000トンに達しています。香辛料栽培の将来性のある地域はアムハラ州、オロミヤ州、SNP州、ガンベラ州があります。低地で香辛料栽培できる土地は200,000ヘクタールあると予測されています。

綿花栽培

綿花はエチオピアでは重要な作物です。綿花の栽培は大きな可能性があり、特にアワッシュ谷

では水が豊富な広大な土地が発見されています。綿花栽培の将来性がある地域にはそのほか、南オモ（オモラテ）、エチオピア北西部（フメラ、メテマ、クオラ、ベレス溪谷）ガンベラ、テケゼ溪谷、ダブス溪谷、ワベシエレ分水界地域があります。綿花の栽培はエチオピアの経済にうまく統合されており、多くの織物・衣料品工場が国内生産された綿に頼っています。このようにエチオピアにおける綿の生産と加工には大きな機会があります。

豆類の栽培

エチオピアでは、そら豆、エンドウ、ひよこ豆、レンティル豆、大豆などの栽培も多く行われており、主に高原および低地両方の小作農家が豆類の栽培を行っています。現在、エチオピアは大量の豆類を国際市場に輸出していますが、栽培のほか、豆類の加工を手がける工場も多く存在しています。

ゴムの木・ヤシの木のプランテーション

エチオピアには天然ゴムおよびヤシ油製造の将来性があります。天然ゴムは熱帯地帯や亜熱帯湿潤地帯で、大規模の商業生産によって栽培されていますが、やや酸性か酸性の土壌が天然ゴムの育成に適しています。エチオピアの南西部は、こうした商業的天然ゴムの生産が行える農業気候的条件が整っています。ヤシの木は多年生植物で、面積あたりにして他のどの油糧種子より多く油が採れ、熱帯および亜熱帯の高温多湿の気候条件で育ちます。また、熱帯の土壌でも育つことができますが、pHは4~6でなければなりません。ヤシの木の栽培は灌漑地でも自然の雨を利用することも可能ですが、エチオピアの南西部の多くの地域は、土壌、気候ともにヤシ油を大規模に育てる必要条件が備わっています。

その他の農産物

砂糖、南洋アブラギリ、トウゴマの生産は国内だけでなく輸出市場でも大きな機会となります。エチオピアが持つ、痩せた土地で育つ南洋アブラギリとトウゴマの大規模プランテーションによる生産の潜在力は巨大です。

次の表にあるように、上記の農産物栽培の将来性をもつ土地はエチオピアのすべての州にあると予測されています。

表Ⅲ.1.農業の可能性ある地域

No.	農業の種類	面積 (ha)	地域
1	米	280,000	SNNP、オロミア、アムハラ、ベニシヤングル・ Gumズ、ソマリ
2	とうもろこし	1,400,000	SNNP、オロミア、アムハラ、ベニシヤングル・ Gumズ、ガンベラ、ソマリ
3	園芸	763,000	SNNP、オロミア、アムハラ、ディレ・ダワ
4	コーヒー	426,000	SNNP、オロミア、アムハラ、ガンベラ
5	紅茶	150,000	SNNP、オロミア、アムハラ、ガンベラ
6	綿花	3,000,810	ティグレ、SNNP、オロミア、アムハラ、ベニシヤングル・ Gumズ、ガンベラ、アフアール、ソマリ
7	油料穀物	1,601,323	ティグレ、SNNP、オロミア、アムハラ、ベニシヤングル・ Gumズ、ガンベラ、アフアール、ソマリ
8	豆類	3,274,469	ティグレ、SNNP、オロミア、アムハラ、ベニシヤングル・ Gumズ
9	天然ゴム	200,000	SNNP、ガンベラ
10	ヤシ油	450,000	SNNP、オロミア、ガンベラ
合計		11,545,902	

出典：農業省

畜産、漁業、養蜂

家畜の飼育、繁殖、肥育のほか、淡水漁業やハチミツ、みつろうの生産もかなりの将来性があります。エチオピアの家畜数はアフリカで1番、世界では10番目に多い国で、この下位部門には畜牛5,088万頭、羊2,598万頭、ヤギ2,180万頭、家禽類4205万羽と大きな資源がすでにあり、ダチョウ、ジャコウネコ、ワニの飼育も大きな機会が存在しています。エチオピアの淡水漁業の将来性は都市部近くにある湖に限られますが、こうした湖で獲れる魚の量は潜在的に年間40,000トンあると予測されています。また、国内市場や国際市場に供給するために淡水魚を育てる水産養殖場の建設にも投資機会があります。現在のハチミツとみつろうの年間生産量はそれぞれ43,700トンと3600トンと見積もられていますが、このようにこの手つかずの下位部門であるハチミツ、みつろうの生産、採取、加工、取引には高い投資機会を見いだすことができます。これに関連して女王バチの需要が急速に高まっており、これも新たな投資機会となっています。

林業と関連事業

生ゴムと香料の生産と市場活動、木材の大規模プランテーション、パルプ、紙、チップボードの統合林業産業の構築などが、商業的林業における個人投資家の潜在的な活動となります。



製造業



2010年度では工業部門はGDPの13.4%を占めています。主な製造活動は、食品、飲料、たばこ、織物・衣料、皮革製品、紙、金属・非金属鉱物製品、セメント、化学薬品の製造となっており、「成長と構造改革計画（2010～2014年度）」に基づき、主に織物・衣料、皮革製品、セメント工業、金属・土木、医薬品、農産物加工に投資がなされています。したがって、投資を検討している方々にとって次のような豊富な製造業の分野が機会となります。

織物と衣料

紡績、製織、織物生地仕上げ加工など、衣料製造過程の最初から製造まで

食料・飲料製品

肉製品、鮮魚・魚肉製品、果物・野菜、乳製品の統合製造および加工、デンプン・デンプン製品の製造、動物用飼料の加工、ミネラルウォーターの加工とボトリング、砂糖の製造、ビール醸造およびワインの製造など

柔皮業と皮革製品

仕上げ段階までの皮革のなめし、旅行鞆類、ハンドバッグ、サドル・ハーネス類、靴・衣料、統合柔皮と製造

ガラスとセラミック

食器類、衛生陶器、ガラス板、容器

化学薬品・化学製品

肥料、ソーダ灰国内の原料を元にした基礎化学製品、天然ゴム、エチルアルコールを原料とするPVC顆粒、苛性ソーダの製造、塩素系化学製品、炭素および活性炭素、沈降炭酸カルシウム、ボールペン、石けんの原料となる獣脂

医薬品・薬剤

薬剤、医薬品、化学薬品の製造、錠剤、カプセル、シロップ、注射剤の形での植物性製品

紙と紙製品

エチオピア原産原料から作られたパルプ、紙、紙製品

プラスチック製品

高圧パイプ、パイプの継ぎ手、シャワーキャップ、洗面器、絶縁取付具、照明取付具、事務用品および学用品、家具用取付具

建築資材

石灰、石膏、大理石、花崗岩、石灰石、陶磁器、屋根用タイル（セメントではなく）、波板、チューブ、パイプと取付具



